



⑤

## 天川弁財天社

20年ほど前に、奈良県の天川村を訪れたことがあります。そのとき、拝殿で夜に聞かせていただいたアマゾンの少女の歌声と、その場の空気の清らかさ、星の数の多さが強く印象に残っています。

天川村は十津川（下流が熊野川）の源流にあたる場所です。大峰山系が作る谷間の村。

天の川が流れています。紅葉と水の美しさは関西一といわれる、わたらい渓谷。大峰山の登り口である洞川温泉。役の行者が修験道を開いた場所。芸能の神様である天川弁財天社。歴史的には南朝の拠点。今も続く山岳信仰と南朝を支えた歴史が独自の空間を作っています。日本有数のパワースポットともいわれます。9月の台風による大水の被害が気になりで再訪しました。

記憶にないほどの大雨だったそうです。村を取り囲む山が3カ所も崩壊。うち1カ所は深層崩壊し、ダム湖のなかに土砂ダムを造ったようです。その結果、川が流れていない場所にまで、急速に水が上がったとのこと。村の方々は命からがら山に逃げたとのこと。弁財天社は川から500メートルほど離れていますが、そこでも160センチ浸水がありました。筆者の目測では15メートル以上の水



位上昇かと思われます。逃げ遅れた中学の先生がお一人、亡くなられました（合掌）。

水害が終わって2カ月。紅葉の残る弁財天社は以前と同じ、清浄な空気が流れる場所でした。水に浸かったとは思えません。しかしながら、坂を下ると、壊れた家が数軒見られます。谷川が本流に合流する場所にある禊殿は土石流に埋もれ、川も石だらけになっていました。また、ダム湖には大量の土砂がたまり、そこに工事用の道路が造られていました。

弁財天社は、地元の方やボランティアが秋の大祭に間に合うよう、整備をされたそうです。ボランティアを引き寄せた宮司さんの力量に地元の方が感服されていました。一方、土石流が起きた場所は国交省の管轄。土石流再発の危険があり、まだ整備の方針が定まりません。人のつながりで早期に正常復帰できた社と、そうならない禊殿は好対照です。

地震・津波・原発・大水。想定外の事態への組織的な対応力を問われた1年が終わろうとしています。

（MBO実践支援センター代表）

